

キャリアデザイン導入における一考察について

○日大生産工（非常勤）津留崎 勝己 日大生産工 落合 実
日大生産工 伊藤 義也 日大生産工 秋葉 正一

今年度から始まった土木工学科のキャリアデザイン導入について考察する。

1. キャリアデザインとは

土木工学科で実施したキャリアデザインとは簡単に言うと学生が「将来の夢」（此处では10年後のあるべき姿）に向かって作り上げていくキャリアをどのようにしたら、着実に積み上げていくことができるか、についてその方法を学ぶものである。

将来に向けて早いうちから目標を持つことが、いかに大事であるかはアメリカの大学でも研究実証されている。下記に一事例をあげる。

アメリカの名門エール大学の20歳の学生に3つの質問をした。

- ①あなたは将来の目標を持っていますか。
- ②あなたは目標をメモしていますか。
- ③あなたは目標達成の計画を立てていますか。

この3つの質問に3つともYesと答えた3%の学生が10年後の30歳の時に、エール大卒業生全体が稼いでいる合計10億円の収入の97%を占めている現実がある。目標をもって歩んだ人3%が97%を占領するとはまさしくキャリアデザインの実現である。

2. キャリアデザインに必要な能力

2.1 どんな能力が必要か。IQが高くないと実現できないのか？ Noである。

人間の能力にはIQとEQがある。IQとは

(Intelligence quotient) 知能指数で生まれつきに持っているものである。一方EQとは (Emotional quotient) 心の知能指数である。これは育てる事ができる。社会にでたらIQだけでは通用しない。EQが80%作用する。IQが高いだけでは駄目で社会での活躍度はEQ (心の知能指数) が80%でIQ (知能指数) が20%と言われている。学校の成績がよくても、人生のピンチやチャンスにはほとんど役に立たない。IQが高いからと言って富や名声を得られる保証はないのに、世間一般に、学校も社会も学力ばかりに注目して、もう一方の大切な資質、すなわちEQには目を向けない傾向がある。IQが同じでも人生に成功する人と躓く人がでてくるのはEQに差があるからだ。私たちが知能をはじめとするさまざまな能力をどこまで活用できるか決めてしまうという意味でEQはメタ能力と呼ぶべき能力だ。それではEQの要素とは何か。アメリカの心理学者・ダニエル・ゴールマンによると①自己認知力 ②忍耐力 ③楽観力 ④共感力 ⑤協調力である。特にリーダーになる人はこのEQの力をバランス良く備えている。EQは生まれつきに持った能力でなく努力することにより成長する。知能を狭義にとらえたのでは「学生が人生をより良く生きていくために、大人は何をしてやれる

Enhance Student's EQ by Career Design

Katsumi TSURUSAKI, Minoru OCHIAI, Yosiya ITOH, Shouichi AKIBA

か」、あるいは「IQの高い人が必ずしも成功せず平均的なIQの人が大成功したりする背景にはどのような要因が働いているのだろうか」といった疑問は湧いてこない。能力の差は「自制」、「熱意」、「忍耐」、「意欲」などを含めた心の指数EQにある。EQは教育可能である。EQを高めることによって、学生たちは持って生まれたIQをより豊かに発揮することができるのである。私たちはキャリアデザインの授業によって学生のEQをできる限り高めたいと考える。

2.2 まず土木工学科の2年生が10年後にどんな人間になっていたいかを調べた。

その夢を叶えるためには[個人主導の能力開発とキャリア形成]が必要である。そして、各自に「私のキャリアデザインマップ」を書かせてみると、公務員志望が30%と民間企業志望が70%で多くの学生が地元に近い所で働きたい傾向がみられる。「30歳で家庭を持ち子供と豊かに幸せに暮らしたい」等の目標があることがわかった。

2.3 職業能力開発

学生から社会人になると、入社時から定期的に職業能力開発訓練が行われる。人間の能力は無限に伸びるからである。早く戦力にするために行うわけであるが、「鉄は熱いうちに打て」といわれるが、若い人ほど本当に吸収率が良いことは筆者も経験している。

「脳科学者の茂木健一郎氏」によると脳を活性化するのに年齢は関係ないそうだ。中高年になっても鍛えれば鍛えるほど脳は活性化するそうだ。

3. どのようにしたら自分の能力を高められるか現状の学生に社会に出てからのキャリア創りを教えても難しい。今は学校にいる間にできることを教える。どんな資格を取りたいかも、その準備をするのも重要な指針である。

キャリア形成のため科目選定

どんな科目を履修していくべきか。現場型技術者（ゼネコン志望）になるのか管理者型技術者（公務員志望）になるのかで履修科目が多少違ってくる。

これは生産工土木OBで「役所に就職した先輩、ゼネコンに就職した先輩、コンサルに就職した先輩」の在学時履修データがあるが、キャリアデザインの科目がなかった頃なので計画的に履修したかどうかはわからない。しかし、今後は多くの学生が将来を見越して履修するものと思われる。そして今期の授業の進め方を下記のように決定した。

4. 前期「キャリアデザイン」の進め方の実践（全13回）

- 4.1 自己理解①自己特性を把握する。
- 4.2 自己理解②自己形成に影響を与えたことを振り返る。
- 4.3 ポジティブ思考の形成 ①ネガティブ思考・制限思考を打破する。
- 4.4 ポジティブ思考の形成 ②ネガティブ性を高める要件を理解する。
- 4.5 ポジティブ思考の形成 ③ネガティブ性を高める要件を理解する。
- 4.6 目的思考の形成 目的意識の重要性を理解する。
- 4.7 ポジティブ思考の形成 ④マンネリ状態を打破する。
- 4.8 人材要件の形成 自分のビジョンを探究する。
- 4.9 社会の変化と企業 業界を知る
- 4.10 社会と学問の関係 自分の目指す職業と適正、将来の目標と資格取得計画。
- 4.11 キャリアデザインマップの形成 ①マップづくりの考え方。
- 4.12 キャリアデザインマップの形成 ②発表。

5. キャリアデザイン導入についての評価

今回13回の授業であったが学生にとって自分を見直す良い機会であったと思う。

授業の後半で学生に「土木工学科・キャリアデザインレポート」を提出してもらった。問いかけは、「この授業の中で学んだこと、修得したことをレポートしてください」とした。

その回答としての中から優秀な事例を紹介する。

学生の回答①

キャリアデザインの授業を受けて様々な事を学ぶことができた。まず、コミュニケーションに必要な5つの要素(自己概念、傾聴、明確な表現、感情の取扱、自己開示)を学んだ。企業はコミュニケーション能力の高い人を求めていることがわかった。この時に「他人と話し合いをする時の自分」の自己診断グラフを書いて、私は自己概念と自己開示が低いことがわかった。しっかりとした自己概念を持ち自己開示することで私の弱みである「人見知り」も改善されるであろうと気づいた。「自己対話のサイクル」では「ネガティブなマイナスの自己対話を止め、ポジティブなプラスの自己対話を必要」とし、潜在意識に定着させることが大切だということを学び、ものの考え方によって「短所」も「長所」になることを知った。

次の授業では自分の「腕時計の絵」を何も見ずに書きなさい、と言われた時に、いつも見ているのに正確に書けなかった。どうして書けないのか不思議だった。これはRAS効果といって人間の脳には「網様体賦活系」と呼ばれる神経システムがあり重要度と緊急度に基づいて、遮断する情報と、受け入れる情報、とをふるい分ける機能が組み込まれていることを知り、脳の活性化ネットワークシステム＝RAS効果は、具体的な目標がインプットされると、その目標のイメージは「潜在意識の中の現実」となり、「現状」とのギャップが目標実現に向かうパワーとして動き出す。このことから色々なものに興味、関心を持つことの大切さと、好ましくない習慣と態度を変えるには、意識的にすることが必要であることを学んだ。快適ゾーンについてはカエルを使った科学実験の話聞き、ぬるま湯

につかっていると出られなくなり、だんだん湯が熱くなっても気がつかず、やがて、ゆでガエルになって死んでしまう。それゆえ、この快適ゾーンから飛び出すことの重要性を知った。又、日本電装の永守重信語録の話を読み、「積極的にやってみるという精神」が成功に繋がることを学んだ。ポジティブ(前向き)に頑張れば結果はついてくることを学んだ。以上、ここでいう永守重信語録とは日本電装社長の社員に対する教育のことで、人間のそれぞれのIQは持って生まれたものが大部分を占めるがEQ(感性指数)は自分の努力によって高めることが可能である。どんな人間も「人間の脳力の差はせいぜい5倍しかない。しかし、意識の差は100倍、場合によれば1000倍だ。重森社長は次のように言っている。

「歩」の人材を確実に育てて「金」にする。それが私の仕事だ。とっている

又、講義終了時アンケートによっても学生の意識が高まったことが裏付けられた。その中の幾つかを紹介する。

事例①

最初は何をやっているのかわからなかったが自分の将来に関わることで非常に興味が持てた。この授業を受けたことで真剣に将来を考えるようになった。

事例②

社会からの人間性が見られ方が、どういふものかわかった。プラス思考がどれだけ大切かもわかった。

事例③

2年生になって専門科目が増えたので少し内容の違うこの授業が新鮮で楽しかった。

事例④

自分の考える時間を授業でやってくれたので将来の見通しができるようになった。

事例⑤

自分で考えていた自分と他人から見た自分の姿はかなり違いがあったので驚いた。
今回の経験を生かしてこれからの生活に役立てたい。

事例⑥

自分のイメージを出すのは大変だと思った。こういう授業は大学では必要だと思う。

等々、多数の学生からポジティブな意見が見られたことはキャリアデザインの導入が成功だったと考える。

受講のまとめ

受講のまとめとして最後にアンケートを取って分析した。下記にその結果をまとめる。

受講生の数は都市コース・環境コース・マネジメントコース合計で241名
アンケート回答数225名（93%）

Q1、自分にとって新しい知識や物事の見方が得られましたか？

A, 充分えられた	173名	76, 9%
B, 少しだが得られた	51名	22, 7%
C, あまり得られなかった	1名	0, 4%
D, 全く得られなかった	0名	0 %

*回答者のうち99, 6%が「充分えられた」と「少しだが得られた」と感じている。これはほとんどの学生に今回の授業が何らかの刺激を与えたものとする。

Q2, この講座・授業で修得したこと、自分で変化向上したと思うことは？

（複数回答）

第1位	自己理解が深まった。	183名	81, 3%
第2位	職種業種の知識理解が得られた	128名	56, 9%
第3位	自分のビジョンが明確になった	99名	44, 0%
第4位	ポジティブ・積極的になった	98名	43, 6%

*183名・81%の学生に自己理解が深まったことは多くの学生が「一皮むけた」と考えられる。また、98名の学生がポジティブ・積極的になったと答えたことは望ましい事である。

Q3、グループワークはスムーズにできましたか？

A, とてもスムーズにできた 93名 41, 4%

B, まあまあスムーズにできた 128名 56, 9%

C, 遅刻者・欠席者が多くスムーズにできなかった 3名 1, 3%

D, 非協力的な人がいてスムーズにできなかった 1名 0, 4%

マップの全クラス平均点	87. 1点
環境コース	82. 4点
都市コース	89. 6点
マネジメント	89. 1点

レポートの全クラス平均点	80. 9点
環境コース	82. 0点
都市コース	81. 1点
マネジメント	79. 1点

テストの全クラス平均点 34. 8点

環境コース	34. 3点
都市コース	35. 9点
マネジメント	33. 8点

（テストは40点満点）

いずれにしてもこの授業を受けて自己理解が深まった学生、自分のビジョンが明確になった学生、ポジティブ・積極的になった学生が増加したことは今後の土木工学科の明るい材料であり、今後もキャリアデザインを有効に活用していくべきと考える。